発言順位	4 番

一般質問発言通告書

下記事項について質問をしたいので、会議規則第５１条第１項の規定により通告します。

令和２年　２月１８日

三島市議会議長　大　房　正　治　様

三島市議会議員　１　番　　沈　久　美　㊞

質問事項１	三島駅南口東街区再開発を考える市民アンケートの結果をふまえて

具体的内容

構想が持ち上がってから「40 年」といわれる三島駅南口再開発。昨年の市当局の説明では、本年前半に都市計画決定がなされる予定とのことでしたので、今まさに 40 年の集大成といえる最終段階＝大詰めの真っ只中にあることになります。

しかしそのわりに、市民の反応はいま一つです。駅前が新しく整備されようというのに、このことを心待ちに楽しみにしている市民はあまりたくさんはいないようにお見受けします。

多くは「反対か賛成かもいえない雰囲気がある」「話題にものぼらない」「のぼっても議論につながらない」「何かいうと喧嘩になりそう（発言がだれかを傷つけたり、不快にしたり、責められたりしそうでこわい）」「今更という感じ。どうせもう決まっている」「勝手にやればよい」という投げやりな態度も多いようでした。一方で地権者に対する同情は多数あり「高齢なのにまだ待てというのか」と問われて絶句することも。いずれも刺激を避け、関わりたくないという不穏な沈滞ムードが漂っており、結果的に無関心でいようとする市民感情を垣間見てきました。

市はこれまで何度も市民向け・議員向け説明会を行ってきました。ところが、現在のこの盛り上がりに欠ける雰囲気の正体は何なのでしょう。高揚感どころか、市民同士が賛成反対をめぐって罵り合う様子を説明会で目の当たりにしたときは心が凍りました。このような事態はどこから来るのか。何がよくないのか、私は涙を滲ませながら取り組みへの使命感を得ました。

40 年にわたる三島の課題であり悲願であるはずの駅前再開発が市民全体の夢の実現の事業になり、市民こぞって完成を待ち望み喜び合い誇りと思えるものにしたい！（←会派共通の願い）私たち会派は大詰めにあるこの時期にできることは何かを考え、全戸配布の市民アンケートと会派の協議会を実施しました。目的は、適切なスピード感を持って事業をよりよく進めるためです。

アンケート結果や協議会での声をふまえ、私は「市の事業における市民参加をどうするか」を論点の中心に据え、再開発事業に関するこれまでの経緯から、行政の役割と議会の役割を改めて確認させていただきたいと思います。このことによって、令和にふさわしい三島の新しい協働の一助になればと願います。ついては以下について伺います。

１．当開発構想が浮上した昭和５５年から本年予定されている都市計画決定までのあらまし

２．４０年が経過したことに対する見解

３．この間、市民の声をどのような形で聞き、市民参加の機会をどれだけ創出してきたか。

４．今後の説明会・公聴会はいかなる工夫がされるか。また声は計画にどこまで反映されるか。

５．行政への市民参加についての見解（議会への市民参加と比較して）